

令四

小論文

注意

答えは全て、解答欄の決められた場所に書き入れなさい。

受検番号

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

人間にとって一番大事なのは、「自分は何も知らない」と自覚することだと私は思います。

「無知の知」を知る。読書はそのことを、身をもって教えてくれます。本を読めば知識が増え、この世界のことを幾分か知ったような気になりますが、同時にまだまだ知らないこともたくさんあると、それとなく気づかせてくれます。

何も知らないという自覚は、人を謙虚にします。謙虚であれば、どんなことからでも何かを学ぼうという気持ちになる。学ぶことで考えを深め、よりよい社会や人間関係を築こうとする。たとえ自分とは違う考え方のものであっても、それを認められる。自分が何も知らないという思いは、その人を際限なく成長させてくれます。

反対に自分は何でも知っている、何でもわかっていると思っている人ほど、質の悪いものはないかもしれません。こういう人は傲慢で、何でも人より優位に立って、自分の思い通りに事を進めようとしたりします。

(中略)

いわゆる知識人といわれる人は、専門分野のことは非常に詳しいものの、専門外のこととなると、ふつうの人とたいして変わりありません。

この世界のことなら何でも知っているといわんばかりの博覧強記の人であっても、知らないことのほうが知っていることより、遥かに多いはずです。

人の一生は限られていますから、どんなに頑張ってもたくさんの本を読んでも、限界がありません。物理的にも人が知りうることには限りがあるということです。

ネットの急速な発達によって、世の中に出回っている情報量は爆発的に増えています。カリフォルニア大学バークレー校のピーター・ライマン教授（1940～2007年）は、1999年の時点で、人類が過去30年かかって蓄積した情報量より多くの情報が、次の3年間（2000～2002年）で蓄積されると指摘しました。

それがもし本当であるなら、現在それから20年近くの歳月が流れ、その間のネットの浸透ぶりを考慮すれば、さらに気が遠くなるほどの情報が蓄積されているはずです。

もちろん、世の中に出回っている膨大な情報のかかなりの部分はいいようなものかもしれませんが、いまの時代、生きている間にも知らないことが加速度的に増えていることだけは間違いありません。

(丹羽 宇一郎 『死ぬほど読書』による。)

(注) 博覧強記 Ⅱ 広く読書し、しかもその内容をよく記憶していること。

ピーター・ライマン Ⅱ カリフォルニア大学バークレー校で、情報を教えていたアメリカの情報科学の教授。

問 傍線部について、「自分が何も知らないという思い」が、人を成長させるとあるが、あなたはどのように考えますか。本文全体をふまえ、あなた自身の経験も交えた上で、二百字以上、二百四十字以内で述べなさい。